

西本武志さん 残照の断片 1

OWCC 中川和道 20260500

西本武志さんが他界された。奥様 西本信子さまからのお電話によれば、4月17日。6月には86才となられる手前のご逝去だった。

長年、全国労山理事長、会長を務められた。登山時報の責任者のときには、1995年阪神大震災で崩壊した六甲山の取材に来られ、川上洋子さんがご同行された。2000年ピット・シューベルト来日を指揮され、百丈やぐらの発展やナイロンザイルの石岡安全基準を守るうえでご尽力いただいた[文献1]。

ここ10年くらい肺水腫、脳・心臓の血管のご病気を患われ、近年は自宅で療養を続けておられた。2026年1月の病院検診のさい、そのまま入院となり、最近点滴で過ごすことに。中川は学会で東京に行くたびにお会いしてきて今年も心待ちにしていたので、残念でならない(写真1)。



写真1. 2025年11月28日 ご自宅にて

中川と西本さんで立ち上げた「平和と登山のあり方懇話会」は、結構大きな波紋となった。安田一郎さんが理事長の時代、中川を大阪に招いて「平和と登山の講演会」を開いて下さったときも、中川は西本さんに入りびた

りて教えを乞うて講演の準備をした。今はもう古い話だが、西本武志・中川和道・松島正光で作った「平和と登山会誌 No1」(写真2)が歴史の証人だ。

西本さんとは、週1くらいで電話を受け、かけ合う日々が30年近くも続いた。「特に用事はないんだけどさあ」、とかいう電話が来たり、こちらからもかけた。西本さんとの思い出の電話がいくつかある。それを綴ろう。

2019年10月25日、西本さんからの電話。前半はナイロンザイルの安全基準の話。その実効性について、微に入り細に入り、ぎちぎちと議論した。今日はえらくとんがった論戦だった、さあ、電話が終わるかなと思った。すると、急に語調が変わった。やや明るい声で、何と、「実は、再婚したんだ」とおっしゃるではないか！「宮城県連の人なんだ」、えっ、あっけにとられた。中川は、豆鉄砲を喰らったハトになった。信子さんのことだった。

電話の前半は、ナイロンザイルの安全基準の話。1975

平和と登山会誌 NO.1

目次

よびかけ	2
申し合わせ	3
【巻頭言】 序りと道標をもって	西本 武志 4
【論文】 登山の分野における平和運動	中川 和道 6
東の「遊び人」の魂をもっと広く	
『山と探検』85号を読んで	上野 司 1.0
15年戦争下の戦役参人ノート	
“おだのめ”を他にしないために	西本 武志 1.4
【例会報告】 (1) 発見の多い、戦時下の足跡本「山岳雑誌なぜ？」	2.8
(2) 日中協会の設立と登山の新しい潮流・中国の山々にもあふれて	3.0
(3) 戦時下登山はどのようにしていたか？	3.1
(4) 自衛隊は山で何をしているか・レンジャー部隊の発展	3.4
(5) 登山の生知学データと人体実験の是非	3.7
(7) 戦後山下のクライミング・ポータランド事情	4.2
(8) 世界の山岳探検	4.4
(9) 戦時下の登山は組織	4.5
(10) テンダ・アグワ・クワの登山探検と登山	
高野あけみ「戦時中登山探検記」について	4.8
【巻末報告】 「きつろの出・あしたの山」	5.7
【寄稿】 奈良国史と自衛隊・“学術的登山行爲”を告発する 自 幸一	5.8
イタリヤ・ブレンシアの山 中野 幸之	5.8
山の探検をみたことがありますか？ 田原 輝之	5.4
高校総体登山は自衛隊参否	2.7
会員名簿	7.0
編集後記	7.0

平和と登山のあり方懇話会

写真2. 平和と登山のあり方懇話会の会誌 No. 1. 1982年10月20日。

年に石岡繁雄氏らが作った安全基準は 2000 年来日のピット・シューベルト氏に引き継がれ、エッジ試験 UIAA108 条として UIAA で実践された[文献 1]。その契機になった通産省役人との会談(ピット氏+西本他+通産省お役人 3 名)の、3 名の名刺が出てきたという[注 1]。そりゃ登山技術史にとって重要史実だね、と話に花が咲いた(詳細は[文献 1])。

西本さんはその後、ピットさんをドイツに訪ね、一緒に山に登られた。写真は、「生と死の分岐点 第 2 巻」[文献 2]84

ページから。ヨーロッパにはよくある「フェラータ」を登っておられる。岩壁に作られた鉄のはしごや固定ワイヤーに落下防止のカラビナを複数かけ、それをかけかえて岩登りを楽しむ。CASSIN のヘルメットが大好きだっ



写真 3, 4. 2003 年頃。ピットさんとフェラータを登る。

たんだよね……。西本さんの明るい声が聞こえてくるようだ。

もうひとつ、平和と登山について電話の思い出がある。「山と仲間」編集部から「西本武志さんという方に電話してみる」とお勧めをいただいた。仕事帰り、JR 吉祥寺南側の電話ボックスから、おずおずと電話した。緊張のあまり、どんな会話をしたか、とても覚えていない。とにかく、話がトントン拍子に進み、「平和と登山のあり方懇話会」の立上げが実現した。「懇話会」の原点となった電話ボックスは中川にとって、まさしく聖地だ。あの電話は、今はもう、ないだろう。それでも、あの場所にもう一度立ち寄り、西本さんとの出会いをかみしめてみたい。

西本さん、ありがとう。安らかに……。

[文献 1] 中川和道、「百丈やぐらから石岡繁雄氏がピット-シューベルトに渡したエッジ試験基準」、山楽登山の世界 60、大阪労山ニュース 2023 年 5 月号。

[文献 2] Pit Shubert, "Sicherheit und Risiko in Fels und Eis, Band II ", Munchen 2002, ISBN 3-7633-6018-2.

[注 1] ピット シューベルト来日時 ロープ安全基準の議論に来た 3 人のお役人の名刺は、

白田良幸 通産省製品安全課 課長補佐
馬場成之 評価技術センター北関東支所 検査調査課長
並木英夫 評価技術センター北関東支所 技官